

平成 2 8 年度

横手市消費者行政の概要

横手市消費生活センター

目 次

○横手市消費者行政の沿革	1
○組織および事務分掌	2
○消費者啓発関係	3
1 消費生活出前講座	3
2 消費者大会	3
3 啓発関係事業	3
○消費者団体関係	4
1 消費者団体の活動支援	4
○消費者支援関係	4
1 消費生活相談	4
2 都市消費者行政協議会	4
3 秋田県都市消費者行政協議会	4
○商品の適正表示関係	5
1 現地調査・立入検査	5
○消費者行政活性化事業	6
1 消費生活相談員等レベルアップ事業	6
2 地域社会における消費者問題解決力の強化に関する事業	6
3 消費生活相談体制整備事業	6
○消費生活相談【平成27年度】	7
1 相談の概要	7
2 相談の受付状況	7
3 相談の処理結果	9
○資料	10
1 横手市消費生活センターの組織及び運営等に関する基準を定める条例	10
2 横手市消費生活センター設置要綱	11

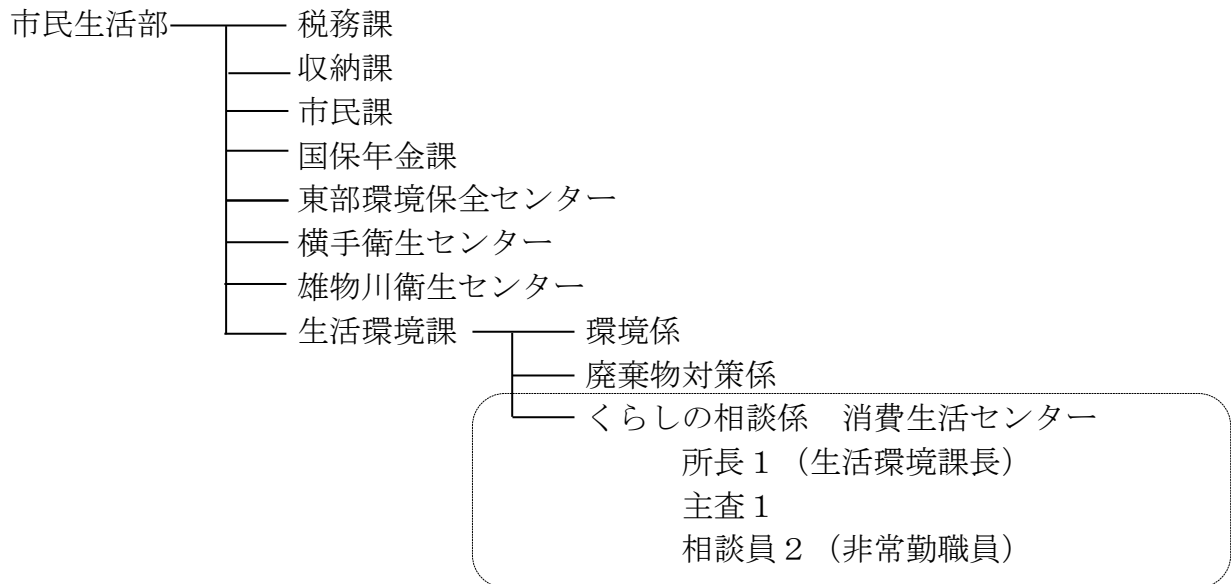
○横手市消費者行政の沿革

平成１７年１０月１日	市町村合併により新横手市誕生 消費生活相談窓口設置（産業経済部商工労働課所管） 旧横手市における消費生活モニター事業廃止
平成２２年４月１日	消費生活センター設置 ＰＩＯネットシステム導入
平成２２年６月１日	消費生活相談員２名体制へ（１名増員）
平成２３年３月３１日	「横手市消費生活センター設置要綱」制定
平成２３年４月１日	「横手市消費生活センター設置要綱」施行（消費生活センターの設置を公示） 市民生活部市民課へ所管替え
平成２４年４月１日	市民生活部くらしの相談課へ所管替え
平成２７年４月１日	市民生活部生活環境課へ所管替え
平成２８年３月１８日	「横手市消費生活センターの組織及び運営等に関する基準を定める条例」制定
平成２８年３月３１日	「横手市消費生活センター設置要綱」一部改正
平成２８年４月１日	「横手市消費生活センターの組織及び運営等に関する基準を定める条例」施行 改正「横手市消費生活センター設置要綱」施行

○組織および事務分掌

平成28年4月1日現在

1 組織



2 事務分掌（横手市消費生活センター設置要綱第3条）

- (1) 消費者安全の確保に関し、事業者に対する消費者からの苦情に係る相談に関すること。
- (2) 消費者安全の確保に関し、事業者に対する消費者からの苦情の処理のためのあっせんに関すること。
- (3) 消費者安全の確保のために必要な情報の収集及び提供に関すること。
- (4) 消費者事故等の発生に係る関係機関との連絡調整に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、消費者安全に関すること。

○消費者啓発関係

1 消費生活出前講座

市民が安全で快適な消費生活を営むために必要な情報提供および教育を受ける機会を提供するため、地域の集まりなどに消費生活相談員を派遣する。

【平成27年度実施状況】

市内各地域のいきいきサロンや敬老会、婦人会などを対象に実施。

(実施回数56回、参加者延べ1,982人)

2 消費者大会

消費者トラブルの未然防止や被害拡大防止のために、地域の関係者が幅広く連携し、地域で見守る体制の拡充を目的として開催。

【平成27年度実施状況】

5月26日(火) 参加者130名

会場：横手市交流センターかまくら館2階ホール

内容：①消費者啓発DVD上映「はしのえみの消費者トラブル予防クリニック」

②パネルディスカッション

「女だらけの座談会～女性の視点で防ごう！消費者被害～」

パネリスト：横手市消費生活センター 消費生活相談員 鈴木紀子

市立横手病院 和泉千香子医師

外山法律事務所 外山奈央子弁護士

横手警察署広報広聴兼被害者支援係 谷藤ひろ子警察官

株式会社こめたび 代表取締役社長 首藤郷さん

コーディネーター：よこてかまくら FM パーソナリティ 柴田優子さん

3 啓発関係事業

消費者に対して健全な消費生活を営むための情報を提供するために、消費者問題に関する啓発・注意喚起を行う。

【平成27年度実施状況】

(1) 消費生活展「つながろう消費者～安全・安心なくらしのために～」

5月15日(金)～5月29日(金) かまくら館1階サニールーム

- (2) マイバッグ持参運動＜横手消費者の会と共催＞
5月29日（金） イオンスーパーセンター横手南店

- (3) 消費生活注意喚起情報ちらしの配布
随時実施（市内全戸回覧8回、全戸配布2回ほか）

○消費者団体関係

1 消費者団体の活動支援

一般市民の消費者意識の高揚と消費生活改善に寄与する市内消費者団体の活動を推進するため、支援を行う。

【平成27年度実施状況】

- (1) 横手消費者の会事務局支援
- (2) 十文字町消費者の会事務局支援

○消費者支援関係

1 消費生活相談

事業者と消費者との間に生じた問題や疑問などに関して、消費生活相談員が、消費者の相談を受け付けるとともに、解決のための助言やあっせん等を行う。

平成27年度相談件数 新規330件 継続406件 （計736件）

2 都市消費者行政協議会

東北地区の都市（76市）における消費者行政の諸問題について、情報交換と連絡協調を行うことにより、消費者行政の円滑かつ効果的推進に寄与することを目的として、昭和44年に発足した。

【平成27年度開催状況】

- ・7月30日（木） 総会・研修会 岩手県盛岡市
- ・11月12日（木）～13日（金） 担当者研修会 宮城県仙台市

3 秋田県都市消費者行政協議会

秋田県内の都市（13市）における消費者行政の諸問題について、情報交換と連絡調整を行うことにより、消費者行政の円滑かつ効果的推進に寄与することを目的として、昭和45年に発足した。

【平成27年度開催状況】

- ・6月4日（木） 総会・研修会 秋田市役所
- ・11月24日（火） 研修会 ホテルメトロポリタン秋田

○商品の適正表示関係

1 現地調査・立入検査

違法な販売や陳列の防止を目的として、店舗への立入・検査を行う。
指定品目の表示・マークの確認および販売業者に対する指示を行う。

【平成27年度実施状況】

電気用品安全法

- ◇点検品目 LED ランプ、LED 電灯器具、延長コード、直流電源装置、電気ストーブ
- ◇検品数 50
- ◇実施事業所数 5

消費生活用製品安全法

- ◇点検品目 乳幼児用ベッド、ライター、石油給湯器、石油ふろがま、石油ストーブ
- ◇検品数 41
- ◇実施事業所数 5

家庭用品品質表示法

- ◇点検品目 ふとん、水筒（合成樹脂製）、アルミ箔、電気洗濯機
- ◇検品数 52
- ◇実施事業所数 5

○消費者行政活性化事業

1 消費生活相談員等レベルアップ事業

消費生活相談業務等に従事する職員のレベルアップを図るため、研修への参加を支援する。

【平成27年度実施状況】

消費生活相談員・行政職員の国民生活センター等が実施する研修への参加を支援した。(述べ3名・7回)

2 地域社会における消費者問題解決力の強化に関する事業

消費者としての自立を促すため、消費者教育と啓発事業の活性化に努める。

- ・消費者啓発用グッズの購入、配布
啓発ポケットティッシュを購入し、消費生活出前講座や各種イベント等の際に配布した。
- ・消費生活センター周知パンフレットの作成、配布
消費生活センター周知パンフレットを作成し、消費生活出前講座や各種イベント等の際に配布した。
- ・消費者トラブル未然防止ステッカーの作成、配付
消費者トラブル未然防止ステッカー（訪問販売拒否の意思表示）を作成し市内全世帯へ配付した。
- ・消費者啓発や注意喚起ちらしの作成、配布
啓発や注意喚起のちらしを作成し、消費生活出前講座や各種イベント等の際に配布した。

3 消費生活相談体制整備事業

消費生活相談員等を適正に配置し、相談窓口の整備を図る。

消費生活相談員 2名 ※平成28年4月1日現在

○消費生活相談【平成２７年度】

１ 相談の概要

（１）消費生活相談件数

- ・平成２７年度の消費生活相談件数は新規３３０件、継続４０６件の計７３６件。前年度比１０２％とほぼ横ばいであった。
- ・６０歳代以上の高齢者からの相談が全体の半数を占めている。

（２）債務に関する相談

- ・多重債務等に関する相談は１８件で、前年度の２６件よりも大幅に減少した。
- ・法テラスなどの相談窓口が広く知られるようになったこともあり、平成２０年度をピークに減少傾向である。
- ・福祉関係部署や税関係部署とも連携し、多重債務による生活困窮者の救済に努めている。

２ 相談の受付状況

- （１）相談件数は新規３３０件、継続４０６件の計７３６件。新規相談は前年比１０２％で、ほぼ横ばいであった。

年度別相談件数

（件）

年度		H23	H24	H25	H26	H27
相談件数	新規	233	231	263	325	330
	前年度比	114.8%	99.1%	113.9%	123.6%	101.5%
	継続	477	507	502	382	406
	合計	710	738	765	707	736

- （２）相談方法は「電話」が２０３件で全体の６２％、「来訪」が１２７件で３８％と、電話での相談が多くなっている。

相談方法（契約当事者情報により集計）

（件）

区 分		計	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	不 明
相談方法	電 話	203	5	7	27	21	27	26	57	33
	来 訪	127	2	10	13	22	12	17	47	4
	そ の 他	0								
	合 計	330	7	17	40	43	39	43	104	37

（３）契約当事者の居住地は「横手市内」が２９６件で全体の９０％を占めるが、「横手市外」居住者の相談も２５件寄せられた。

契約当事者の居住地

（件）

区 分		計	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	不 明
居住地	横手市内	296	6	13	34	40	35	40	100	28
	横手市外	25		4	4	3	4		3	7
	不 明	9	1		2			3	1	2
	合 計	330	7	17	40	43	39	43	104	37

（４）契約当事者は「７０歳以上女性」が６１件（１８％）で最も多く、次いで「７０歳以上男性」の４３件（１３％）となっている。性別による大きな差は見られなかったが、７０歳以上が１０４件と全体の約３割を占めている。

契約当事者の性別・年代別

（件）

区 分		計	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	不 明
性別	男 性	145	5	6	17	18	21	25	43	10
	女 性	167	2	11	22	25	18	18	61	10
	不明・団体	18			1					17
	合 計	330	7	17	40	43	39	43	104	37

（５）販売形態別にみると、無店舗販売が２２２件と、店舗販売の６１件を大きく上回っており、中でも「通信販売」が８７件、「電話勧誘」が８６件と多く、両方合わせると相談全体の５割を占めている。

販売形態別相談件数（契約当事者情報により集計）

（件）

区 分			計	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	不 明
販売形態別	無店舗販売(小計)	H27年度の主な商品	222	6	11	31	31	29	30	70	14
	①訪問販売	光回線、プロバイダー、新聞	36	1	2	2	6	5	3	14	3
	②通信販売	アダルト等有料サイト、服飾品	87	4	6	20	17	14	8	15	3
	③電話勧誘	プロバイダー、光回線、光電話	86	1	1	6	8	10	19	36	5
	④マルチ	化粧品	1		1						
	⑤その他	モバイルデータ通信、婦人服、着物	12		1	3				5	3
	店舗販売	借金、賃貸住宅、建築工事	61	1	5	8	8	6	7	13	13
	不明・無関係	不審電話、不審メール、架空請求	47		1	1	4	4	6	21	10
	合 計		330	7	17	40	43	39	43	104	37

3 相談の処理結果

- ・相談員によるあっせん件数は28件であり、全て解決に至っている。
- ・その他については助言や情報提供を行い、相談者自身での問題解決をサポートしている。
- ・弁護士等の関係機関へ引き継ぐ場合は、相談概要をまとめた相談カードを作成し、円滑な引継ぎに努めている。

相談処理結果（契約当事者情報により集計）

（件）

区 分		計	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	不 明
処理結果	助言(自主交渉)	115	3	7	18	21	19	19	20	8
	その他情報提供	173	3	9	17	19	17	20	63	25
	斡 旋 解 決	28	1		4	2	2	4	14	1
	斡 旋 不 調	0								
	他機関紹介	4			1	1				2
	処理不能・不要	10		1			1		7	1
	処理継続中	0								
合 計		330	7	17	40	43	39	43	104	37

○横手市消費生活センターの組織及び運営等に関する基準を定める条例

平成28年3月18日

条例第4号

(趣旨)

第1条 この条例は、消費者安全法（平成21年法律第50号。以下「法」という。）第10条の2第1項の規定に基づき、消費生活センターの組織及び運営、情報の安全管理に関する事項等に関する基準について定めるものとする。

(名称及び住所等の公表)

第2条 市長は、消費生活センターを設置したときは、遅滞なく、次に掲げる事項を公表するものとする。当該事項を変更したときも、同様とする。

- (1) 消費者生活センターの名称及び住所
- (2) 法第10条の3第2項の消費生活相談を行う日及び時間

(職員)

第3条 消費生活センターに次の職員を置くものとする。

- (1) センター長
- (2) 消費生活相談員
- (3) 事務職員

(職員の知識及び技能の向上等)

第4条 消費生活センターは、法第8条第2項各号に掲げる事務に従事する職員に対し、その資質の向上のための研修の機会を確保するものとする。

(秘密保持等)

第5条 職員は、正当な理由がなく、その業務上知り得た情報を漏らしてはならない。職を退いた後も同様とする。

2 消費生活センターは、法第8条第2項各号に掲げる事務の実施により得られた情報の漏えい、滅失又は毀損の防止その他の当該情報の適切な管理のために必要な措置を講じるものとする。

(委任)

第6条 この条例の施行に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

○横手市消費生活センター設置要綱

平成23年3月31日

告示第43号

改正 平成24年4月1日告示第109号

平成27年4月1日告示第78号

平成28年3月1日告示第15号

(設置)

第1条 市民の消費生活に関する相談及び苦情（以下「相談等」という。）を適正かつ効率的に処理するため、横手市消費生活センター（以下「センター」という。）を設置する。

(名称及び位置)

第2条 センターの名称及び位置は、次のとおりとする。

- (1) 名称 横手市消費生活センター
- (2) 位置 横手市中央町8番2号

(取扱事務)

第3条 センターは、次に掲げる事務を行うものとする。

- (1) 消費者安全の確保に関し、事業者に対する消費者からの苦情に係る相談に関すること。
- (2) 消費者安全の確保に関し、事業者に対する消費者からの苦情の処理のためのあっせんに関すること。
- (3) 消費者安全の確保のために必要な情報の収集及び提供に関すること。
- (4) 消費者事故等の発生に係る関係機関との連絡調整に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、消費者安全に関すること。

(開設時間)

第4条 センターの開設時間は、午前9時から午後5時までとする。

(休業日)

第5条 センターの休業日は、次のとおりとする。ただし、市長が特に必要と認めた場合は、これを変更し、又は臨時の休業日を設けることができる。

- (1) 日曜日及び土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- (3) 12月29日から翌年1月3日までの日（前号に掲げる日を除く。）

(職員)

第6条 センターに置くセンター長は、市民生活部生活環境課長をもって充てる。

2 センターに置く事務職員は、市民生活部生活環境課長が指名する者とする。

(消費生活相談員)

第7条 センターに置く消費生活相談員は、消費者安全法（平成21年法律第50号）第10条の3に規定する要件を満たす者とする。

(職員研修)

第8条 第3条に掲げる事務を行う職員は、有する資格、知識、及び経験に応じ、消費生活相談の事務の実施に必要な知識、技術等を身に付け、かつ、常に資質、技能等の維持及び向上のために必要な研修を受けるものとする。

(相談等の記録)

第9条 相談員は、相談等の内容及び処理の結果を記録するものとし、5年間保存しなければならない。

(情報の適切な管理)

第10条 第3条の事務の実施により得た情報を適切に管理するため、次に掲げる事項について必要な措置を講じるものとする。

(1) 正確かつ最新なものとする。

(2) 滅失、改ざん、毀損その他の事故を防止すること。

(3) 漏えいを防止すること。

2 保有する必要がなくなった情報（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によつては認識することができない方式で作られた記録をいう。）によるものを含む。）については、確実かつ速やかに廃棄し、又は消去しなければならない。

(その他)

第11条 この告示に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附 則

この告示は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成24年4月1日告示第109号）

この告示は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成27年4月1日告示第78号）

この告示は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成28年3月1日告示第15号）

この告示は、平成28年4月1日から施行する。